

全員協議会会議録

- 1 日 時 令和6年3月18日（月） 10時51分開会 11時09分閉会
- 2 場 所 議 場
- 3 出席議員 山本奈央・田村幸紀・只野敏彦・川上 均・中河つる子・鈴木孝寿・
橋本晃明・桜井崇裕・佐藤幸一・西山輝和・中島里司・深沼達生・
議長：山下清美
- 4 事務局 事務局長：大尾 智、次長兼総務係長：川口二郎
- 5 議 件
(1) 予算審査特別委員会の進行について
- 6 会 議 録 別紙のとおり

【開会 10:51】

(1) 予算審査特別委員会の進行について

山下議長：只今より全員協議会を開催する。先程の予算委員会の中で話し合われたことについて、話を議運の中でさせていただいた。鈴木議員から中断したことについての説明、どういようにすすめたらいいかということで議運の中で話をさせていただいた。中河委員長の見解を、弁明というか、その時のやり取りの話を、止めた経過について話を聞いた。中河委員長としては事前に委員会の進め方ということで、打ち合わせをしながら予算の質疑について、受けていく中での細かいところまでは話はしていなかったと、そういった中で中河委員長が予算のページとか色々みていた中で新設の部分がなかったの、これについては予算になかったのという部分で中断はしたのだけれども、途中で鈴木議員から修繕の関係も絡んでくるのでということで、それであればつながるといって将来的な意義について質疑ができるという解釈のもとで続けていくという部分はその時に話をして、そういった部分で予算質疑という部分を委員長は中心に考えていたので、大きく一般質問につながりそうだったので、そういった部分が中断したけれども、つながれば進めたかったという部分であったので、予算についての質疑を中心にやりたいと、そして将来に渡っての意義、先程鈴木議員が言っていた部分というのは、それがまた細かくなってくると、それだけになってしまうと。

鈴木議員：私が言っているのは私個人的な考えではなくて、皆さんお買い求めになっている議員必携、特にこの辺については予算における着眼点というところがある。その部分について、こういうところを議論しなければならないというのがあるわけである。例えばお金に絡んでいるわけではなくても計画があったりしたら、それは質疑、将来的に必要なのかどうかを含めた質疑は必要だと書かれている。私はそれに従って質問させていただいている。これが例えば今回大きな枠にないとしても質疑をダメだと言うのであれば、どこで議員は質問すればいいのかという話になるし、議員が質問をできなくなったら議員ではない。正直言ったら議員である必要なくなる、議員は必要なくなるわけである。そういう部分もあったので今回言わせていただいた。それは前回の決算でも似たような事があったけれども、その時には私もカットしてきたので記憶がぶっ飛んでいるところがあったけれども、例えばスポーツ推進委員の中で体育館の話とかは毎回出ているということを知っていて、そこに行く職員がいるわけである、事務局として、その給料どこから出ているのかと言ったらあそこから出ているわけである。全て関連しているわけである。だから、予算に本当に関係ないのかと言ったら関係あるに決まっている、その事業やっているのだから。計画あるのだし、それを今回お金出していないからダメとなったら、そこでもし今日私の意見が通らないなら通らないで結構である。結構だけれども、今回私は予算に絡んでいない質問沢山している。初日から戻って議事録出していただいて、まず予算委員会でカットしていかなければならないということだろう。予算委員会の中で認められないと今そのように言われたら初日から戻って質問調整したいと思う。予算委員会のことは予算委員会できなきゃ、あとからカットできないから。

議会事務局長：委員長が議事をしているので、そこで委員長が感じながらとか進めているところなので、必ずしも前にも同じ関連無い質問があったと言われたとして

も、そこで止めていないということはそのまま進んでいるという解釈でいいのではないか。その都度その都度委員長が発言を止めたりとか、例えば違う聞き方してくださいとかいうことをその都度やられるので、それがきっちりこれとこれは聞いていいとかいけないとかが明文化されているわけではないので、その都度その都度委員長の進め方で決まっていくので、遡ってということにはならないと思う。

鈴木議員：ならば、今回止めた理由がわからない。さっきの回答では納得しがたいところがある。だって体育施設費のところでは体育館の話をして何が悪いのか。なぜそこで止めるのかわからない。だったらもっと最初に止められているところがいっぱいあるなど思いながら。それで、まさかそこで止められるとは夢にも思っていないわけで、こちらルールブックを読みながらやっているわけである。ルールブック読んでいる人どれくらいいるのかという話だけでも、それでやっていて鈴木委員そこは予算にないから予算にないものは質問できませんという発言だった。それはあり得ない。それは9月の決算で同じことやっているではないか。怒っているつもりはないのだけれども、ここはもう一回皆ルールブックを見ましょうと、ルールブック見た中でもう一回勉強して今後ないようにしてもらえれば私はそれで結構ですというのは議長にもお伝えしている。この問題を長くさせるつもりはないけれども、これは鈴木委員が間違えだともし指摘されるのであれば、予算委員会初日から戻ってカットするという話をする可能性がある。私が間違いだと思ったら間違いだから、訂正したいので議事録全部だしてくださいと言ったら、そんなのあるわけないのだから、そんな嫌がらせはしたくないのでよろしく願う。

中島議員：今の鈴木議員の話も聞いていても、予算特別委員会の話題になっているけれども、決算の時もそういう思いがあったということで本人は思っているわけだから、中河委員長がどうのこうのではなくて、議会で公式の場で議員がそれぞれ発言するものとして、不適切な言葉等々については問題あるだろうけれども、中身、執行側とか決算とかで言ったらかなり範囲が広い、ここだけで終わるのは少ない。そういうことであれば今回の発言について正しかった正しくなかった、正しくなかったら鈴木議員に対して議長としてこういうところが好ましくないと、たぶん委員会、議運の方含めて議論したら、取り組みなんかは議論したのか。個々の議員のやり取りだけ議員を批判したりなんかしたら、そんな話していたのではないか。それであれば私は最終的に今集まった人が一人一人の意見がどうのこうのではなくて、まとめるのは議長である。議員の発言ということに対して、委員長は議長が指名しているわけだから、任命責任までいうつもりはないけれども、皆まちづくりの仲間であるから、だから議長としてこうあるべきだったのではないかと、あの議員がああ言ったこう言ったなんてないと思うけれども、それを言ったら最低だから。私たちは執行者と対峙しているわけだから、今の言葉が不適切だったというものがあれば、それは議長として注意すべき、そうでなければ今後の取り組みについて議長は今後とも、こういうことはこういうように進めていくという話をすればこの先と言うのはお互い議員がまちづくりに関わって款項目の中でそれに関するものは一定の発言はしていいという理解になると思う。清水の議会としてこういうことが話題になっているのだから、進めるのは基本的に議長の役目だから、その辺について議長が皆の話聞いた結果こうだったと、議会としてはこういうように進めていこうと思うということを皆に理解を求めた上でここに出て来ていけば話が早いのではないか。今話を聞いていたら全く否定するものではないわけである、そうであれば進め方についてお互いに気を付けながら進めていく、というのは局長の役目は大きい、去年議会に変わったばかりだから、議長も局長も来て2年目、ご苦労されていると思う。その辺も話し合いの中でスムーズな運営と議員として最低の役割を果たせるような議会作りを目指してもらい

たいと思うので、私は議長の覚悟だと思っているので、議長まとめて。

山下議長：事務局と相談しながら進めているけれども、議案の質疑と一般質問の二通りがあるという部分は議員の皆さんご存じだと思う。予算の場合は更に広がる部分もある。建設費という部分でこれはないと中河委員が止めた部分があるけれども、そういった部分も予算に関わる部分があるという判断をすれば進めていってもいいと思うので、その部分がそっちの方に、別な部分に動いていくとか、予算に関わってどうつながっていくか、予算から今年の予算もそれに向かってどう使われるかという部分の議論もあるので、その辺の説明も各議員がされて質問していただきたいと思うが、今回については止めた部分あったけれども中河委員長がその時にそういった部分が、一般質問に関わる部分と解釈してしまったという部分があるけれども、その後に鈴木議員が修繕費の関係も話があったので、そうすると今年の予算にも関わっていくという部分があるので、予算の気になる部分はそれに関連付けて気になる部分はあると、なかなかこれはこれと判断しにくい部分がある。今回そのように判断してしまったということで、ケースバイケースでできればもう少しわかりやすく質疑をしていただけるとありがたいと思う。

鈴木議員：このままいたずらに時間かけてもしょうがないし、これは継続して、たとえば全員協議会でもいいしその後の研修でもいいけれども、一体どういうものなのかということたぶん皆さん理解されていない。勉強会を今後継続して、更に研究してより良い議会運営をしていきたいと思いますということで、私はこれで先程の部分については、冒頭に言った部分についてはある意味納得、大部分納得したので、今後については間違いなく勉強しないと、分かっている人と分かっていない人の差が大きすぎて運営にならないので、ここはお互いに切磋琢磨して勉強していこうということで提案は予算委員会ではしないけれども、そういう認識のもとで今後進めて欲しいということで、結論としては色々見解があった中で、どちらも間違いではないと、運営する側のトップの考え方ではあるので、とは言いながら今後検討していく、勉強していくということでより良い委員会活動をしていこうという感じでスタートしていただければ、私もその部分については取り下げたいと思う。

中島委員：その方向で皆さんに諮って頂いて、休憩を解いて特別委員会できるように諮ってほしい。

山下議長：今の主旨を踏まえながら予算委員会を再開して、今後更にお互いに勉強を深めながら進めていきたいという話をしてスタートしていただきたいと思う。経過については特に触れないようにして、今後も議会、委員会の審議について勉強していきたいということで進めてよろしいか。

(「はい」との声あり)

山下議長：よろしく願います。以上で全員協議会を終了する。

【閉会 11:09】